法政大学

SDGs＋（プラス）推進特設部会

Voluntary University Review

SDGs＋レポート

2024

（Vol.4）

法政大学

法政大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

SDGs VUR発行に寄せて

法政大学は、2018年12月の「SDGsに関する総長ステイトメント」の発表を皮切りに、SDGsに関する様々な取り組みを行ってまいりました。そして2023年には、HOSEI2030推進本部の特設部会「SDGs+（プラス）推進特設部会」を設置して、法人全体の長期ビジョンの一環としての位置づけを明確にし、SDGs達成に向けた活動を加速させてきました。

2023年はSDGsが採択された2015年と目標の達成年である2030年までの折り返し地点「ハーフウェイ」に当たります。この時点の取り組みとして、「法政大学SDGs+（プラス）2030アジェンダ」をアップデートし、あらためて大学という機関の特性を踏まえ、「教育」「研究」「社会貢献」「学生」といった軸を意識して、パートナー企業・機関・自治体の皆様とも連携を深めつつ、より実践的なプログラムを展開し、本学ならではの「実践知」の創出を目指す活動を展開いたしました。目標の達成年まであと6年となった今、SDGsの達成に向けて着実に具体的な成果を挙げていくことが非常に重要になっており、本学としても今後より具体化した活動に取り組んでいく所存です。

このたび、本学のSDGsに向けた取り組みに対するフォローアップ・レビューの内容をまとめた「SDGs+レポート 2024」を発行する運びとなりました。フォローアップ・レビューは、取り組みを点検・評価し、取り組みが着実に成果に向かっていけるようなガイドラインとしての役割を果たすことが期待される取り組みです。その過程を通して、パートナー企業・機関・自治体の皆様からのご支援の大きさと、本学学生のさまざまな活動への参加の大きな意義を再確認することができました。この場を借りて、感謝申し上げます。

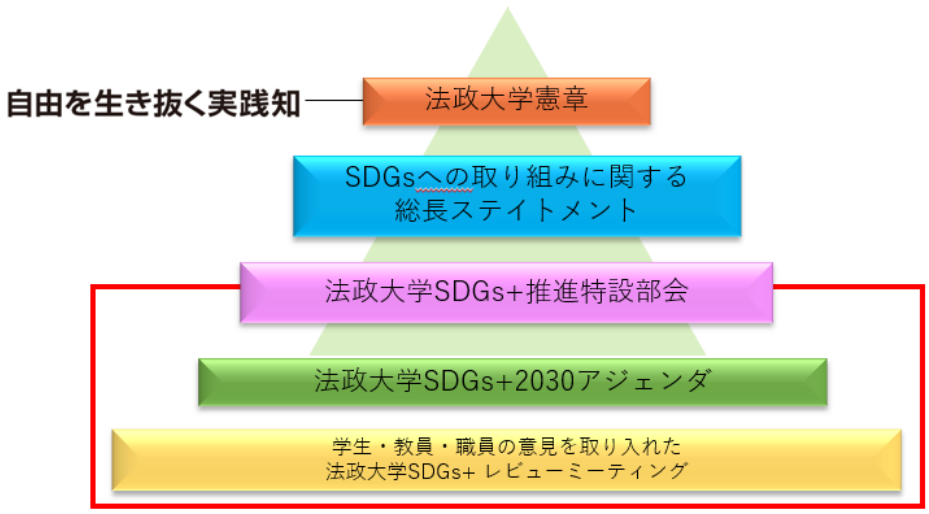
法政大学総長
廣瀬　克哉

法政大学SDGs+（プラス）推進特設部会
と
法政大学SDGs+2030アジェンダ

法政大学SDGs+推進特設部会とは

法政大学では、1999年に環境憲章制定、ISO14001審査登録などを行って以来、地球環境との調和・共存と人間的豊かさの達成を目指し続けてきました。2016年には法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」を制定し、より一層、地球社会の課題解決への貢献および持続可能な社会の未来に貢献することを謳っています。

2018年12月には、法政大学憲章の下、「SDGsへの取り組みについての総長ステイトメント」を発表するとともに、全学的にSDGsを推進し、法政大学ならではの貢献をプラスするという意味を込めたプロジェクト「法政大学SDGs+（プラス）プロジェクト）」を設置しました。さらに2023年4月からは、法人全体でSDGs推進により一層取り組むべき課題であるとの考えから、HOSEI2030推進本部の「SDGs+（プラス）推進特設部会」に移行し、「教育」「研究」「社会貢献」「学生」の4つを軸とし、様々なパートナーと連携しながら活動を実施しています。

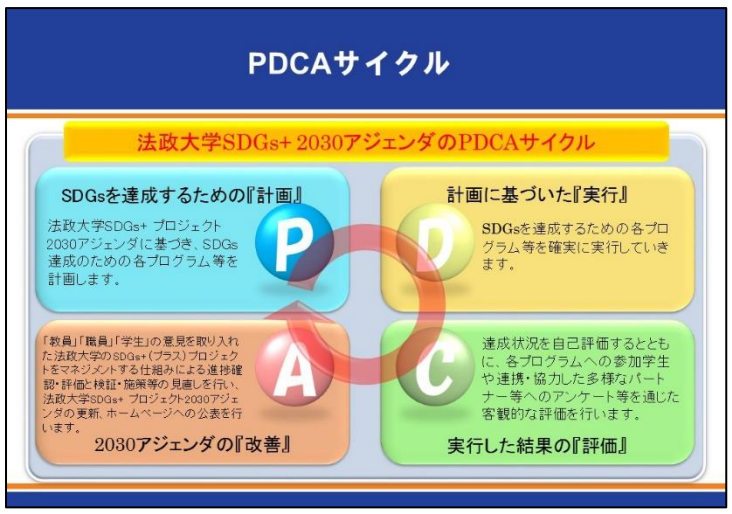


法政大学SDGs+2030アジェンダとは

本推進特設部会では、2020年からSDGsの「行動の10年（Decade of Action）」がスタートしたことを踏まえ、2030年までに達成すべき目標として、「法政大学SDGs+2030アジェンダ（以下アジェンダ）」を策定しています。アジェンダでは、「教育」「研究」「社会貢献」「学生」「パートナーシップ」のゴールを定め、それぞれに、ターゲット、インディケーター、目標値（2030年次）を設定しています。

また、アジェンダの進捗状況を確認し、行動計画の改訂を行うレビューミーティングを毎年実施しています。

このSDGs+レポートでは、ゴールごとの主な活動内容等を報告します。



教育×SDGs

EDUCATION for SDGs

4 質の高い教育をみんなに

ゴール1

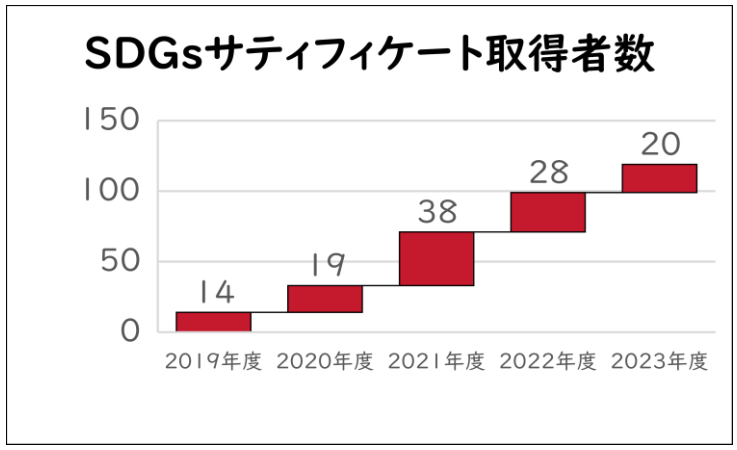
SDGs人材育成のためのあらゆるプログラムを設置し、SDGs人材を世界中に輩出する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
1．1	すべての学生等がSDGsについて理解する。	1．1．1	オンライン講座「SDGs入門」の受講者数	累計1万人以上
		1．1．2	SDGsサティフィケート取得者数	累積2,000人以上
		1．1．3	SDGsに関する正課外教育プログラム等の受講者数	累積5,000人以上
1．2	すべての学生等が多様なフィールドでSDGsを実践する。	1．2．1	SDGsに関係したフィールドワークプログラムの実施数	累積100以上
		1．2．2	SDGsに関係したフィールドワークの参加人数	累積2,000人以上
1．3	すべての学部等においてSDGsに関連する科目を幅広く開講する。	1．3．1	SDGsに関連する科目数	2030年のSDGs科目群への提供科目数1,000科目以上

SDGsサティフィケートプログラム

SDGsサティフィケートプログラムとは、本学が独自で制作したSDGs学習用オンデマンドコンテンツ「SDGsオンライン解説動画」を視聴し、全学部から提供されているSDGsに関連した科目で構成されている「SDGs科目群」の中から12単位以上を修得することで授与される修了証（サティフィケート）のことです。2021年度秋学期発行分より、デジタル証明書である「オープンバッジ」を活用して発行しています。

2023年度末時点での取得者数は119名となっており、ようやく取得者数3桁に達したものの、目標値の10%にも届いておらず、依然として取得者数の増加は課題であります。今後はサティフィケートの周知強化だけではなく、取得する意義や活用方法、社会（企業や自治体等）からみたサティフィケートの魅力等を含めた広報戦略を検討し、推進いたします。



STARTプログラム

STARTプログラムとは、SDGsで先進的な取組をしている企業等からゲストスピーカーを招き、講義やフィールドワーク、グループワーク、グループ発表を行うことを通して、SDGsを学び、実際のアクション（行動）に繋げるための思考を学ぶ正課外教育プログラムです。2023年度は、本学をはじめ、明治大学や本学とSDGs連携をしている高校など、多くの他大学の学生・高校生にも参加いただきました。本プログラムは、一般財団法人三菱みらい育成財団からの助成を受けて実施しており、昨年度は株式会社日本旅行様、株式会社セブン&アイ・ホールディングス様、三井住友海上火災保険株式会社様、株式会社みずほフィナンシャルグループ様を講師に招き実施しました。企業から直接学べる機会は貴重であり、また大学生・高校生の世代を越えてともに学びあうことができる本プログラムの評価は非常に高く、2024年度はこれまでの経験とノウハウを活かし、さらに発展的なプログラムとして実施します。

那須塩原市でのフィールドワーク

最終発表会

STARTプログラム報告記事

STARTプログラム受講学生の声

近年SDGsという言葉を見かけたり聞いたりする機会が多く、なんとなくSGDsについて知っていたのですが、もっと詳しく知り自分でも貢献できるようになりたいと思いこのプログラムに参加しました。

このプログラムに参加して、いろいろな企業の方からSDGsについては勿論、どのようにビジネスと結びつけるかなどの講義をしていただきました。また、グループワークを通し自分たちで考えることの楽しさと難しさを同時に学ぶことができました。

那須塩原のフィールドワークでは、講義の中で出てきた施設に行ったり、実際にEV車に乗らせていただいたりと教室での講義とは違った体験をすることができました。フィールドワークを通し普段関わりがないグループの人たちとも仲良くなることができ、今ではお互いを高めあえるかけがえのない友達になりました。SDGsに興味があるけれど何をすれば良いかわからない人、環境とビジネスについて学びたい人、同じ目標を持った仲間と出会いたい人にお勧めです！

明治大学
政治経済学部　地域行政学科
小林　千桜さん

研究×SDGs

RESEARCH
&
INNOVATION
for SDGs

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

ゴール2
SDGs達成に貢献する研究を推進し、社会に発信する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
2．1	SDGs達成に貢献する研究やSDGsに関連する研究を活発に行い、発信する。	2．1．1	SDGs登録プロジェクト数	累積100以上
		2．1．2	SDGsに関連した他機関等との共同研究数	累積50以上
		2．1．3	ホームページや冊子等で発信するSDGsに関する研究数	累積1,000以上

SDGsに関連した他機関等との共同研究数

法政大学SDGs+2030アジェンダでは、SDGsに貢献する研究の促進および発信を活発化させるため、「SDGsに関連した他機関等との共同研究数」をインディケーターの一つとして設定しています。これは、本学内のSDGsに関連した研究の一部を把握・整理するとともに、そうした研究を社会に発信していくことを見据えて設定したものです。これまで本インディケーターを把握する方法は確立できていませんでしたが、研究開発センターとの連携により、共同研究や受託研究、寄付研究などの申請書に、貢献するSDGsのゴールを記載する欄を設けることとなりました。2024年度からは、SDGsに貢献する研究の数や分野等を把握するとともに、その研究を社会へ発信していきます。

カーボンニュートラル研究セミナーの開催

法政大学では、SDGsの推進に加え、カーボンニュートラル社会の実現のため、様々な活動を推進しています。2024年3月には小金井市後援のもと、カーボンニュートラル研究セミナーを開催しました。本セミナーでは、2023年度に設置した「カーボンニュートラル研究助成制度」に採択された方による成果報告会やカーボンニュートラルに資する文理融合研究の実装に向けた講演など、様々な専門分野から理解を深めました。本学の教職員や学生、小金井市民、小金井市にある高校の教員や生徒など、多くの参加がありました。

講師集合写真

フライヤー

国際の平和と安全のための協調行動に関する研究

法学部
本多　美樹　教授

研究者になる前は、英字新聞The Japan Timesで記者をしていました。転機は、1990年のイラクによるクウェート侵攻に端を発した湾岸戦争です。日本にも平和活動への協力が求められるなど、この戦争は国際社会に大きな影響を及ぼし、国際の平和と安全の回復のために国連が果たす役割の重要性が改めて浮き彫りになりました。これをきっかけに、安全保障や国際秩序はどうあるべきかを考えさせられ、大学院に進みました。

世界の平和は、自国の国益を守ろうと戦略的に駆け引きをする国家間関係の上に成り立っています。その前提を踏まえて、外部からの強制的な措置は平和の回復にどれほど寄与できるのか。この問いの答えを求めるのが、私の関心事です。おもに、国連加盟国の政治がぶつかり合う総会および安全保障理事会（以下、安保理）の機能と役割を中心に研究を進めています。

2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻にみるように、安保理は常任理事国のロシアの拒否権によって機能不全に陥っています。それにより、主要国および各国の企業はそれぞれの判断で経済制裁などの強制的な措置を講じていますが、国際秩序は益々不安定になるばかりです。国家は秩序の安定のためにどのように利害調整を行うのか、企業やNGOなどの非国家アクターとどの程度協力できるのかについて国際機構論の視点から日々観察しています。

安全保障理事会の様子
©UN Photo/Loey Felipe

表　研究テーマ・概要とSDGsとの関係

研究キーワード	研究関連の主なSDGs目標
国際機構 国連研究 グローバル・ガバナンス 安全保障	10 人や国の不平等をなくそう　16 平和と公正をすべての人に　17 パートナーシップで目標を達成しよう

社会貢献×SDGs

SOCIAL CONTRIBUTIONS for SDGs

ゴール3

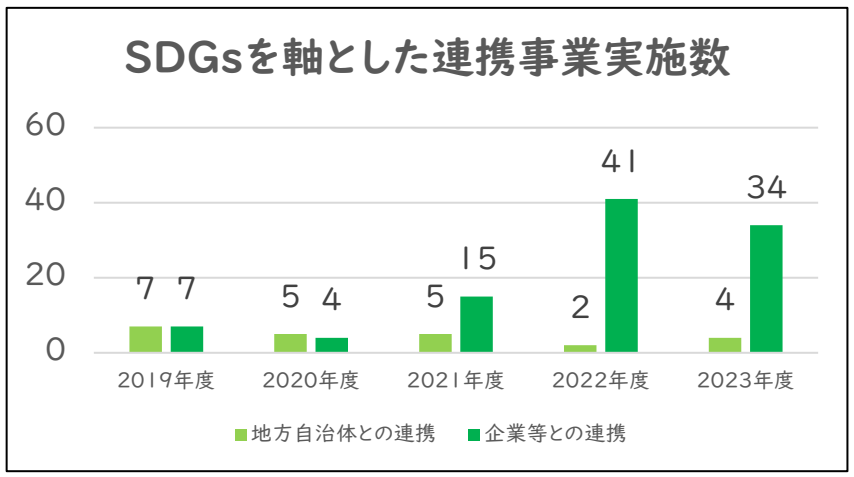
社会との接続を強化し、誰一人取り残さない社会を構築する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
3．1	SDGsの「leave no one behind（誰一人取り残さない）」の理念に基づき、誰もが無償で受けられるプログラムを提供する。	3．1．1	SDGsに関連する講座、セミナー、シンポジウム等の開講数	累積100以上
3．2	SDGsを軸とした高校教育と大学教育の接続プログラムを実施する。	3．2．1	プログラム実施数	累積50以上
3．3	SDGsを軸とした連携事業を活発に実施する。	3．3．1	地方自治体との連携事業実施数	累積100以上
		3．3．2	企業等との連携事業実施数	累積100以上

SDGsを軸とした連携事業

法政大学では、社会との接続を強化するため、様々な企業や地方自治体との連携事業を実施しています。企業等との連携事業実施数は2022年度より大きく伸ばし、2023年度末時点で目標値である100回を達成することができました。そのため、目標値は200回に上方修正し、今後の取り組みをさらに強化していきます。

一方で地方自治体との連携事業実施数については目標値に対して達成状況は23%に留まっており、今後の取り組み計画を見直す必要があります。オンラインとフィールドワークを上手く使い分け、特定の地域だけではなく、地域間を比較研究できるよう、様々な自治体との連携を模索していきます。



SDGsを軸とした高大連携事業

法政大学では、早期のSDGs教育および大学生と高校生の世代を越えた学び合いによる新たな刺激・発見を目的に、SDGsを軸とした高大連携プログラムを展開しています。「教育×SDGs」でも取り上げた「STARTプログラム」をはじめ、2023年度は4回の高大連携事業を実施しました。その一つである特別講座「化粧のちから」は、2023年度より開講した「未来教室サティフィケートプログラム」創設のための学生サポーターによる提案を端緒に開催された特別講座ですが、人生100年時代とも言われている現代社会において、化粧のちからがもたらす未来の健康をテーマにジェンダーレスや高齢者社会などの社会課題解決に目線を置いた講座であることから、SDGs WEEKsのプログラムにも位置付け、高校生にも門戸を開きました。当日は本学の付属校、協定校に所属する高校生41名が参加しました。参加した高校生からは「ジェンダーレスについて詳しく知ることができ、高齢者のメイクアップの利点を知ることが出来ておもしろかった」「身近なところでSDGsに貢献している所があると知り、興味深かった」などの感想が寄せられました。

資生堂ジャパン（株）様の講師による講演の様子

SDGsパートナーズに加盟する高校から見た本学のSDGsの取り組みへの声

三輪田学園は法政大学と高大連携を締結している関係から、2022年より「SDGsパートナーズ」にも加入させていただいています。

STARTプログラムは様々な高大連携事業の中でも、ゼミナール形式とフィールドワークを融合させた8か月に及ぶ長期継続型の産学連携という特色のある活動で、高校生にとっては自らの限られたテリトリーの外にある知見や体験を得られる貴重な機会です。

一昨年は6名、昨年は10名の三輪田生が参加をしましたが、参加者は一様にそれまで気付くことのなかった社会課題への意識が芽生え、その解決へのアプローチを議論し、思考を深め、解決策を形にするといった過程の中で生まれる協働作業の大切さや達成感を感じることができたと語っています。中には大学での専攻や将来やりたいことが見えてきた生徒もおり、その教育的効果は明白です。

STARTプログラムの更なる進化に、参加高校として今後も期待を寄せています。

三輪田学園
中学校・高等学校
湯原　弘子　教頭

学生×SDGs

STUDENTS ENGAGEMENT for SDGs

ゴール4

学生があらゆる場所で活躍できるフィールドを提供する。

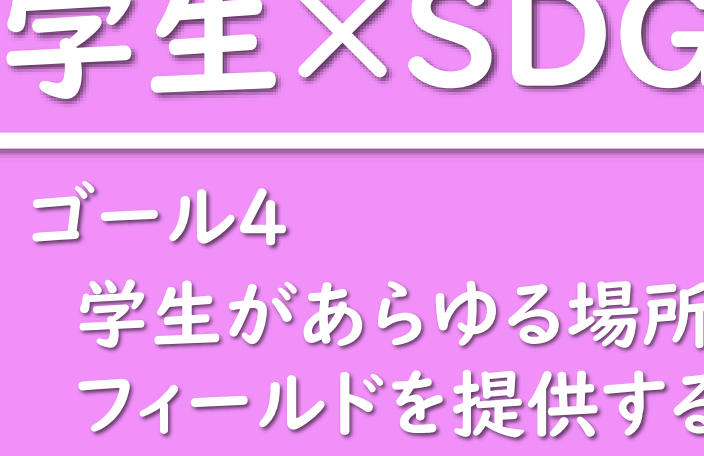
ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
4．1	すべての学生がSDGs達成に貢献する取り組みを実施する。	4．1．1	SDGs Action Students of HOSEI（SASH）登録者数	累積500人以上
		4．1．2	認定プロジェクト数	累積100以上
4．2	世界中の学生とSDGsをテーマにした交流を実施する。	4．2．1	海外学生との交流プログラムの参加人数	累積4,000人以上
		4．2．2	海外学生との交流プログラム実施回数	累積400回以上
4．3	学生がSDGs達成に貢献する活動やSDGsに関連する活動内容を発信する。	4．3．1	コンテストやポスター展示会などのプログラム実施回数	累積20以上

KANDAI×HOSEI SDGsアクションプランコンテスト

法政大学と関西大学は、SDGsを軸とした様々な連携事業を共同で実施しています。その一環として、2020年度より「KANDAI×HOSEI SDGsアクションプランコンテスト-持続可能な未来のために私たちができること-」を共催しています。このコンテストは、学生自らが大学における学びの中で持続可能な社会の姿について主体的に考え、SDGsの達成に向けての具体的な提案を行うものに対して顕彰し、学生によるSDGsのためのアクションの創出を促進することを目的に実施しています。2023年度は両大学合わせて23件のエントリーがあり、そのうち10チームが本審査へ出場し、多種多様なアクションプランが発表されました。

KANDAI×HOSEI SDGsアクションプランコンテストの様子

コンテスト詳細



SDGsに貢献する活動を行う学生団体「SASH」

SASH（サッシュ／SDGs Action Students of HOSEI）は2019年に立ち上げられた学生組織です。SDGsへ貢献する活動を積極的に行う学生たちにより構成され、2023年度末までに104人の学生が登録しています。

これまでに合計30回の認定プロジェクトが実施されており、高校生に向けたSDGsを気軽に学べるプログラムの実施や、大学内での服の循環を目指した活動など、学生たちの興味関心に合わせたプロジェクトが活発に行われています。一方で、プロジェクト実施数が目標値100回以上にはまだ届かない数値に留まっていることから、今後はSASH内でのプロジェクト立ち上げを促進するため、SASHに新規加入した学生へのSDGsの理解やプロジェクトの手法などの学びの要素を加え、主体的に活動できる学生の育成を目指していきます。

SASHの活動 ～『ワクワクする未来を創る』～

私たちSASH（サッシュ：SDGs Action Students of HOSEI）は、SDGsに関する取り組みを行っている大学公認の学生組織です。現在40名以上の学生がキャンパスや学年の垣根を越えて活動しています。そんなSASHは「ワクワクする未来を創造する」をモットーにしており、今年は大学内の様々な場所に貼る予定である、自分たちができるSDGsの取り組みを紹介したSDGsステッカーを作成したり、廃材クラフト体験会を開いたりしています。そして今年の夏休みは関西大学のSDGsサポーターの方々との合同合宿を行い、一緒にできるSDGs関連のイベントを考える予定です。

このような魅力的なSASHとの出会いは新歓祭にありました。私はもともと環境問題に関心があり、たまたま高校時代に環境問題についてクラスの人と話す機会がありました。しかし、マイナス面にばかり注目していたからか次第に暗い雰囲気になり、結局議論がまとまらず何も行動に移せないまま終わってしまったのです。

それに対し、SASHは私の環境問題に対するイメージを払拭させてくれました。皆さんの中にも社会問題に対してマイナスなイメージを持ったり、何もできないと最初から諦めてしまったりしている方は多いのではないでしょうか。SASHは自分たちが楽しみつつ小さなことでもSDGsに貢献することの大切さを知っている団体です。このワクワクを大学内に広げていけるよう取り組みを促進させていきたいと考えています。

古着譲渡会の様子

SDGsステッカーの検討内容

人間環境学部
大森　莉花さん

SASHのInstagram

パートナーシップ×SDGs

PARTNERSHIP for SDGs

17 パートナーシップで目標を達成しよう

ゴール5

あらゆる課題に対して、パートナーシップで目標を達成する体制を構築する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
5．1	地方自治体や企業、大学など様々なパートナーとの協力体制を構築する。	5．1．1	地方自治体のパートナー数	10以上
		5．1．2	企業等のパートナー数	60以上
		5．1．3	大学など教育機関のパートナー数	10以上
5．2	様々なパートナーとコミュニケーションを図り、新しい価値を創造する。	5．2．1	SDGsパートナーズ交流会等の開催数	累積10回以上

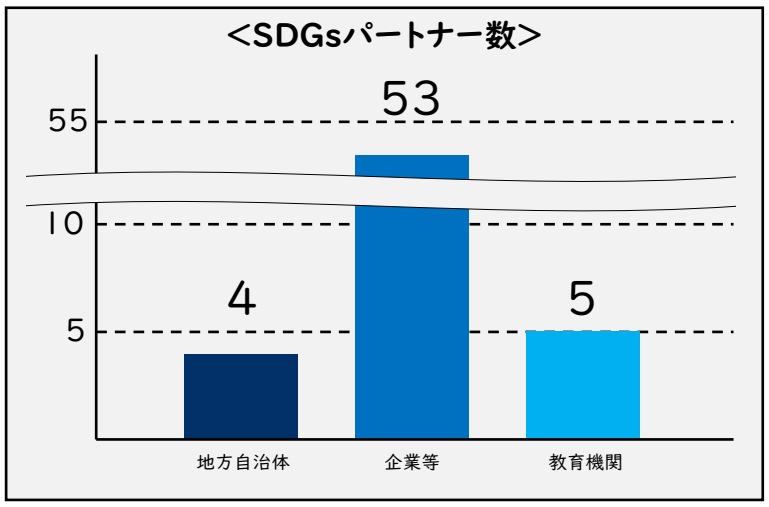
「法政大学SDGsパートナーズ」加盟団体との連携

SDGsパートナーズに加盟する地方自治体や企業等、教育機関等の数については、2030年の目標値を十分に達成できる状況となっています。2022年度の助走期間を終え、本格的に連携活動を開始した2023年度は、札幌市・下川町・北海道大学・関西大学と連携して開催したカーボンニュートラル夏季短期学習プログラムや、陸前高田市との連携によるSDGsワークショップの実施など、実質的な連携を活発に行うことができました。

2024年度以降も実質的な連携を重視し、教育や研究、社会貢献、学生などの他のゴールの達成を支える基盤として、パートナーシップを推進します。

カーボンニュートラル夏季短期学習プログラム

陸前高田市SDGsワークショップ



法政大学SDGsパートナーズ交流会の開催

法政大学SDGsパートナーズでは、学生の活動発表の場の提供や、本学とパートナーとの連携事業の促進、さらには学生とパートナー、またパートナー同士の交流などを目的に、年に2回交流会を開催しています。2023年度は、SDGs学習プログラムとして株式会社モリサワ様による「伝わる文書から始めるSDGs」と題したセミナーの実施や、パートナーから課題やテーマを提示していただき、そのテーマについてパートナーと学生の混成グループによるディスカッションを行うプログラムなど、新しい取り組みを実施しました。また、懇親会ではディスカッションを行ったグループメンバー同士だけではなく、他のグループの学生やパートナー同士など、活発な交流が行われました。参加者からは、「バックグラウンドの異なる人物同士でディスカッションを行ったことで、普段思いつかないような意見や考えに触れられた。」「企業の抱える課題をSDGsの観点で考えるのは新鮮で楽しかった。」などの感想が寄せられました。

2024年度以降も、プログラムの連携だけに留まらず、こうした交流の機会の創出を目指していきます。

2023年度 第1回交流会

2023年度 第2回交流会

株式会社モリサワ様による SDGs学習セミナー

SDGsワークショップの様子

法政大学SDGsパートナーの声

ものづくりの業界では近年「脱炭素」「脱プラスチック」といった課題を突き付けられ続けています。とはいえ一切合切を別の資源に置き替えることはできないので、効率的で循環的な資源の利用（サーキュラーエコノミー）が我々の目指すところとなっています。

そんな中で、私どもが包装資材メーカーとして今後取り組むべきことは何かということを、あらゆる業界に身を置かれる「法政大学SDGsパートナーズ」の企業・団体の方々、そして今まさに法政大学様で学んでいる学生の皆様と一緒に考えたいと思い、一介の営業部員ではありますが2023年度第2回法政大学SDGsパートナーズ交流会にてワークショップのファシリテーターを引き受けさせていただきました。

広い視野でのアイデアを頂き、企業が取り組むSDGsはお客様を含め協力関係にある方と力を合わせて達成していくものと実感しました。パートナーズの方々と学びの場で集まってコミュニケーションできたことに大きな意味があったと感じています。

大阪シーリング印刷株式会社
三浦　紀史　氏

SDGs+推進特設部会の取組みに対する第三者意見

日産自動車株式会社　日本事業広報渉外部　General Manager 部長　高橋　雄一郎　氏

日産自動車は、2050年クルマのライフサイクルでのカーボンニュートラル実現を目指し、様々な取り組みをしています。特に走行中排出ガスゼロの電気自動車（EV）については2010年から「日産リーフ」を発売。その後も「日産アリア」「日産サクラ」「日産クリッパーEV」を追加し、日本市場をリードしています。

法政大学様のSDGsに対する積極的な活動に賛同し、2023年9月に「法政大学SDGsパートナーズ」に加盟させていただきました。具体的な活動としては、学生さん向けにEVの講義やEV試乗、またEVから電気を取り出して電化製品を動かす体験を実施し、多くの学生さんに「自分事化」していただく機会を提供させていただいております。

貴学は学生さんに対してSDGsに関する多くの学習の機会を創出されており、日本を担っていく人材の育成に大きく貢献されていると感じています。今後も日本のSDGsの取り組みの中心となっていくことを期待しております。

北海道大学　サステイナビリティ推進機構　教授　加藤　悟　氏

北海道大学は、世界の課題解決に貢献する研究を推進し、国際社会の発展に寄与する人材を育成する国内最大規模の総合大学です。2024年には、大学の社会貢献の取組みをSDGsの枠組みを使って評価する「THEインパクトランキング2024」で世界72位にランクインし、2020年から5年連続で国内1位を獲得しています。

法政大学様は2018年12月に当時の田中優子総長名で「SDGsへの取り組みについての総長ステイトメント」を、日本の大学でトップランナーとして発表されています。その活動に高い敬意を払うとともに、その姿勢を学ばせていただくため「法政大学SDGsパートナーズ」に加盟させていただきました。

2023年度からは、関西大学様も含めた3大学と、札幌市、北海道下川町との連携で「カーボンニュートラル夏季短期学習プログラム」を開催し、下川町での見学やフィールドワークを実施するとともに、3大学の学生間の交流活動を実現しています。2024年度も開催し、継続開催していきたいと考えています。

札幌キャンパス全域（一部除く）が、生物多様性の保全に貢献している区域として「自然共生サイト」として、2024年3月に環境省から認定されました。ネイチャーポジティブ面でも連携を深めていきたいと考えています。

SDGs+レポート総括

ー法政大学SDGs+推進特設部会座長よりー

現状を正確に把握する力を磨く

「あと6年強」しかありません。国連が設定したSDGsの達成に向けて残された時間です。それは長いでしょうか？それとも短いでしょうか？

様々なメディアで国内外のSDGs活動が取り上げられるようになったことは事実です。しかし、「理解を広げよう」という範疇に留まっていることが多いように感じます。17の目標に対して、多様な手段を講じていく余地があります。その際、現状を正確に把握する力を磨くことが第一歩だと考えています。

また、169のターゲットに関連して、国連統計委員会は248のSDGグローバル指標を承認しています。私が専門とする「障害」分野を例に取ると、この指標の中に「障害」または「障害者」に言及する12の指標が含まれていることはほとんど知られていません。

目標、ターゲット、指標のそれぞれを念頭に置きつつ、「法政大学SDGs+プロジェクト2030アジェンダ」に沿って、本学の関係者一人ひとりがSDGsを具体化していく必要があります。

2030年、そしてその先の未来を見据える

本学のSDGsへの取り組みは、「教育」「研究」「社会貢献」「学生」を軸に、独自の展開を見せています。今回で4回目の発刊となるこのSDGs+レポートは、そうした取り組みの全体像を把握するのに最適なものです。

ここで、次世代のSDGs人材育成および輩出を目指す「法政大学SDGsパートナーズ（HSP）」について特筆します。HSPは目覚ましい広がりを見せており、すでに60を超える企業・団体が参加しています。年に2回開催されるHSP交流会を通じて、学生、教職員、そしてHSP関係者が集い、SDGsに関連する知識やアイデア、新たな活動の芽を育んでいます。このような場は、成功事例や進捗、新たな傾向、そして直面する課題に向き合うヒントを得る重要な機会となっています。

2030年、そしてその先の未来を見据えるためにも、創意工夫は欠かせません。本学ならではのユニークで実践的な活動が広く深く展開されるよう、今後も努力を続けてまいります。

現代福祉学部
佐野　竜平　教授
法政大学SDGs+推進特設部会座長

アジアの障害インクルーシブな国際協力に関する研究・教育活動に従事。日本政府による障害関連の国際プロジェクトにおいてリーダーを歴任。「関西大学×法政大学SDGsアクションプランコンテスト2023」では、佐野ゼミ&関西大学深澤ゼミ有志によるMixチームが最優秀賞他2賞を受賞。他にも「人馬のウェルビーイング」など斬新な取組を学生・教職員と実践中。

Voluntary University Review
「SDGs+レポート2024（Vol.4）」

発行：法政大学SDGs+推進特設部会
2024年9月30日　発行